

成功狸が解説します！「The・政策評価への道」（HP案）

ある日、とある普通のためきと普通のきつねが化かし合い大会をしていました。
とその時、ためきの目に三角形が留まりました。みるみるためきは、評価の神様「成功狸」に変身し、化かし合い大会を中断し、評価についてきつねに解説しはじめました。。。

ためき：あのきつねさん、政策評価ってご存知ですか。

きつね：はい？政策評価？恥かしながら見聞きしたことも、それに化けたこともありません。

ためき：そうですか、実は私、趣味が「評価すること」なんです。

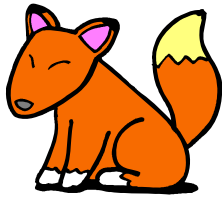
きつね：そんな趣味も初めてききましたが、政策評価って何ですか。

ためき：政策評価とは、京都市民のくらしやまちが、今どのような状態であるのかを把握し、京都市の政策の目的がどれほど達成されているかを評価するものです。

きつね：そう言われても。。。ひとまずどんなものか、教えてください。

京都市の26ある政策の評価と106ある施策の評価結果は、それぞれ評価票に掲載していますが、いきなり最初からは見にくいものだろうと思います。
そこで、環境問題を例に、評価のポイントとなる点をご説明します。





評価のことを全く知らない僕にも分かるように説明して！



政策・施策・事務事業は、上のピラミッドのような体系になっています。

まず、政策の下部に位置する施策の一つ、「廃棄物を出さない循環型社会の構築」についての施策評価結果を見ていきましょう。

<まずは、評価票を見てください！>

施策番号	1313		
施策名	廃棄物を出さない循環型社会の構築		
概要	市民・事業者と共に、ごみの発生抑制とリサイクル、適正な処理等を進め、廃棄物を出さない循環型社会を構築する。		
担当局	環境局	共管局	なし
上位政策	131 環境への負担の少ない持続可能なまちをつくる		

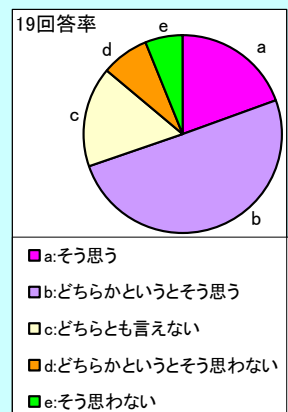
施策の評価

1 客観指標評価

		17年度	18年度	19年度評価				
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	ごみの総排出量削減率（％）	a	a	4.6	5.9	1.4	421.4%	a
2	ごみの再生利用率（ごみの排出量に占める再生利用量の割合）の伸び率（％）	c	c	2.3	2.7	3.5	77.1%	c
3	ごみの最終処分量（直接埋立量＋焼却残灰埋立量）削減率（％）	a	c	16.3	21.1	16.8	125.6%	a
4	ごみの処理処分量削減率（％）	a	a	11.2	13.0	5.5	236.4%	a
5	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-	-	-
10	-	-	-	-	-	-	-	-
		a	b	客観指標総合評価				a

2 市民生活実感評価

設 問	ごみの減量、分別収集や集団回収などに取り組む人が増えている。					
回答	17		18		19	
	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率
a: そう思う	66	11.5%	51	9.6%	94	19.5%
b: どちらかというと思う	221	38.4%	210	39.7%	243	50.3%
c: どちらとも言えない	144	25.0%	132	25.0%	79	16.4%
d: どちらかというと思わない	86	14.9%	85	16.1%	38	7.9%
e: そう思わない	59	10.2%	51	9.6%	29	6.0%
有効回答数	576		529		483	
市民生活実感評価	c		c		b	



* この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

3 総合評価（客観指標総合評価＋市民生活実感評価）

	17	18	19
客観指標総合評価	a	b	a
市民生活実感評価	c	c	b
総合評価	B	B	A
重み付け		(理由)	
☒ 客観指標	☐ 市民の実感	市民の生活実感に施策の効果がすぐに反映されにくい性質があるため、客観指標総合評価を重視する。	

4 原因分析・今後の方向性

総合評価は平成18年度のBから平成19年度はAとなった。客観指標総合評価において、ごみの再利用率の伸び率（％）以外の3項目でA評価となり、計画に掲げた数値目標の達成に向けての取組は順調に進んでいる。また、市民生活実態評価についても平成18年度のcから平成19年度はbとなっており、ごみ減量に向けた取組が市民に浸透してきたと考える。

平成19年度においては、プラスチック製容器包装の分別収集の全世帯拡大をはじめ、市民が自主的にごみ減量や分別リサイクルを実践できる施策を充実させることで、廃棄物を出さない循環型社会の構築に取り組んでいく。

（参考）この施策実現のための主な事務事業

	事業名	18年度予算 (千円)*	19年度予算 (千円)*	18年度事務事業評価に おける今後の方向性	担当部・課
1	廃棄物対策研究調査	14,127	8,699	現状のまま継続等	環境局適正処理施設部施設整備課
2	廃棄物減量等推進審議会運営	29,173	30,867	現状のまま継続等	環境局循環型社会推進部循環企画課
3	ごみ減量推進会議運営	35,091	70,786	充実	環境局循環型社会推進部循環企画課
4	廃食用油燃料化事業	34,731	39,331	充実	環境局循環型社会推進部循環企画課
5	使用済乾電池処理適正化事業	8,247	9,307	現状のまま継続等	環境局循環型社会推進部循環企画課
6	秘密書類リサイクル事業	5,202	5,217	現状のまま継続等	環境局循環型社会推進部循環企画課
7	不用品リサイクル情報案内システム運用	5,069	11,507	充実	環境局循環型社会推進部循環企画課
8	ごみ減量・リサイクル推進店「めぐるくんの店」推奨	3,867	3,913	充実	環境局循環型社会推進部循環企画課
9	ごみ減量推進員制度	3,511	3,539	現状のまま継続等	環境局循環型社会推進部循環企画課
10	コミュニティ回収	18,641	63,441	充実	環境局循環型社会推進部循環企画課
11	魚腸骨再生対策	653,141	1,934,325	現状のまま継続等	環境局循環型社会推進部循環企画課 適正処理施設部
12	「京のごみ減量事典」作成	62,333	27,833	現状のまま継続等	環境局循環型社会推進部循環企画課
13	リターナブルびん（生きびん）等の拠点回収	46,391	47,491	充実	環境局循環型社会推進部循環企画課
14	「京のごみ戦略21」推進に係る調査	48,377	41,277	現状のまま継続等	環境局循環型社会推進部循環企画課
15	蛍光管拠点回収事業	9,673	19,173	充実	環境局循環型社会推進部循環企画課
16	電動式生ごみ処理機等購入助成事業	80,163	156,663	充実	環境局循環型社会推進部循環企画課
17	京都市産業廃棄物処理指導計画推進	23,467	19,227	現状のまま継続等	環境局循環型社会推進部廃棄物指導課
18	京都環境保全公社への府市協調支援	2,174,073	2,123,073	現状のまま継続等	環境局循環型社会推進部廃棄物指導課
19	大岩街道周辺地域対策	13,676	13,676	現状のまま継続等	環境局循環型社会推進部廃棄物指導課
20	廃棄物排出事業者指導業務	127,243	128,973	充実	環境局循環型社会推進部廃棄物指導課
21	埋立処分地整備	82,994	293,316	現状のまま継続等	環境局適正処理施設部管理課
22	南部資源リサイクルセンター運営	226,277	170,491	現状のまま継続等	環境局適正処理施設部管理課
23	北部クリーンセンター建替え整備	11,531,292	0	現状のまま継続等	環境局適正処理施設部施設建設課
24	南部クリーンセンター第二工場建て替え整備事業	222,123	243,462	現状のまま継続等	環境局適正処理施設部施設建設課
25	焼却灰溶融施設整備	5,022,482	5,489,470	現状のまま継続等	環境局適正処理施設部施設建設課
26	建設リサイクル法に関する事務	50,217	49,717	現状のまま継続等	都市計画局建築指導部審査課
27	建設副産物対策	4,123	4,061	現状のまま継続等	建設局管理部監理検査課
合計		20,535,705	11,008,836		
うち、主たる事業の合計 (従たる事業の合計)		20,535,705 (0)	11,008,836 (0)		

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含む



分からないことだらけ。。。どうやってみていくの？



施策の概要は

「市民・事業者と共に、ごみの発生抑制とリサイクル、適正な処理等を進め、廃棄物を出さない循環型社会を構築する」とあります。



なるほど、この概要に書かれてあることを実現するための施策なんやね。



そうそう、この施策の評価するうえで、「客観指標評価」と「市民生活実感評価」の2つの手法を使って評価をします。

1 「客観指標評価」

客観指標とは、行政活動の成果や、各施策の状況を、数値を用いて表現する指標です。

この施策には、次の4つの客観指標が設定されていて、それぞれ 19 年度の評価結果は次のようになっています。

指標名	19 年度評価 結果
ごみの総排出削減率(%)	a
ごみの再生利用率(ごみの排出量に占める再生利用量の割合)(%)	c
ごみの最終処分量(直接埋立量+焼却残灰埋立量)削減率(%)	a
ごみの処理処分量削減率(%)	a
客観指標総合評価	a



a や c っていう結果はどうやって出しているの？



客観指標の評価は、点数化したうえで、a から e の 5 段階で行います



	前回数値 16年度	最新数値 17年度	推移	目標値		
				数値	根拠	達成度
数値	2.3	2.7	0.4ポイントの増	3.5	＜目標値＞中長期目標値と基準年度（平成13年度）の数値との差を基準年度から現状（最新数値を取得した年度：17年度）までの経過年数で按分したものを単年度目標値とする。 ＜達成率＞伸び率で評価	77.1%

点数化の方法を、「ごみの再生利用率」の数値から見てみましょう。

今年度の評価に用いた数値は、上のようになっています。そして、この指標の評価基準については、下記のような評価基準が設定されているため、上記の達成度：77.1%は、「ごみの再生利用率」はc評

価となるわけです。

＜単年度目標達成率＞
a:100～
b:80～100
c:40～80
d:0～40
e:～0

総合評価については、各客観指標の評価を

それぞれ点数化(a:4点, b:3点, c:2点, d:1点, e:0点)して合計し、最高点に対する指標の合計割合から算出しています。

上記の場合、指標が4つなので、最高点は $4 \times 4 \text{ 点} = 16 \text{ 点}$ 、a評価が3つ、c評価が1つなので、 $3 \times 4 \text{ 点} + 1 \times 2 \text{ 点} = 14 \text{ 点}$ となり、合計点は 13 点

$14 \div 16 \text{ 点} = 0.824$ となります。そして、

a:80%以上100%以下（大変良い状況にある）
b:60%以上 80%未満（やや良い状況にある）
c:40%以上 60%未満（状況は）どちらとも言えない）
d:20%以上 40%未満（やや悪い状況にある）
e: 0%以上 20%未満（大変悪い状況にある）

という評価基準により、客観指標総合評価は「a」評価となるわけです。

2 「市民生活実感評価」

市民 3000 人に対し、施策ごとにアンケートを実施した結果を表しています。

この施策の場合、「ごみの減量、分別収集などに取り組む人が増えている」という設問を設けています。19 年度のアンケート結果は次のようになっています。

回 答	回答者数	回答率
a:そう思う(2点)	94	19.5%
b:どちらかというと思う(1点)	243	50.3%
c:どちらとも言えない(0点)	79	16.4%
d:どちらかというと思わない(-1点)	38	7.9%
e:そう思わない(-2点)	29	6.0%
有効回答数	483	
市民生活実感評価	b	



こちら、どうやって b という評価を導いてるの？



こちら、点数化したうえで評価しています。



それぞれ a から e までの回答者数と点数を乗じたものを足し合わせ、それを有効回答数でまず割ります。

上記の場合、 $94 \times 2 \text{ 点} + 243 \times 1 \text{ 点} + 79 \times 0 \text{ 点} + 38 \times (-1 \text{ 点}) + 29 \times (-2 \text{ 点}) = 335$

$$335 \div 483 = 0.7$$

そして、合計点に応じて5段階で評価を行います。

- | | |
|-------------------|------------------|
| a: 0.8以上 | (大変良い状況にある) |
| b: 0.3を超え 0.8未満 | (やや良い状況にある) |
| c: -0.3以上 0.3以下 | ((状況は)どちらとも言えない) |
| d: -0.8を超え -0.3未満 | (やや悪い状況にある) |
| e: -0.8以下 | (大変悪い状況にある) |

よって、 $0.3 < 0.7 < 0.8$ となり、評価結果が「b」となるわけです。

3 総合評価について

今まで算出してきた客観指標総合評価と市民生活実感評価の結果を総合的に勘案し、最終 A から E までの 5 段階で評価結果を出します。上記の施策の場合、



客観指標総合評価:a
市民生活実感評価:b
総合評価:A

となっています。

客観指標総合評価が「a」、市民生活実感評価が「b」、で、どういう理由で総合評価が「A」になっているの？



はい、それはいい着眼点ですね。

19 年度から、2つの評価結果が異なる場合、どちらの評価結果を重視するかを示す「**重み付け**」を記載しています。

上記の施策の場合は、「市民の生活実感に施策の効果がすぐに反映されにくい性質がある」という理由から、客観指標総合評価を重視しています。よって、「A」評価となるわけです。



なるほど、それで評価完了ってわけですか。



いや、完全に完了ってわけではありません。評価の結果を受けて、その結果を分析し、今後どのような方向性をとっていくべきかなどの事柄を「**原因分析・今後の方向性欄**」に記載しています。

それから、政策・施策に関連する事務事業についても、参考として記載しています。

詳しい評価の内容については、[こちらのページ\(事務事業評価のHPへリンク\)](#)まで。



以上で、施策評価についてのレクチャーを終わります。

では、続いて、さきほどの施策「廃棄物を出さない循環型社会の構築」の上位に位置する政策「環境への負担の少ない持続可能なまちをつくる」の評価票を見てみましょう。

政策番号	政策名
131	環境への負担の少ない持続可能なまちをつくる
政策の方向	「地球温暖化防止京都会議（COP3）」の開催都市として、市民、事業者、行政の連携の下、経済的手法の検討も含め、二酸化炭素（CO₂）排出量の削減や資源・エネルギーの有効利用など総合的な地球温暖化防止対策に積極的に取り組むとともに、ごみの発生抑制とリサイクル、廃棄物の適正処理を推進する。 さらに、豊かな自然環境との調和を図りつつ、市民の自主的な環境保全の取組を支援することで、ひとりひとりがくらしに節度を持ち、環境への負担の少ない持続可能なまち「環境共生型都市・京都」を実現する。

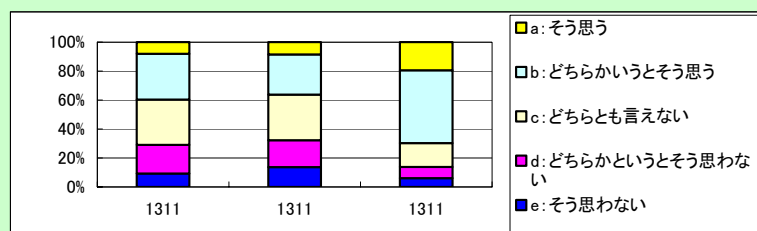
政策の評価

1 政策の評価に用いる客観指標の最新値と評価

施策番号	客観指標名	17		18		19	
		数値	評価	数値	評価	数値	評価
1311	温室効果ガス排出量（万t）	798	c	822	e	828	e
1311	KES認証件数（件）	173	a	264	b	439	a
1312	環境保全基準達成率（大気）（%）	70.2	b	73.7	b	72.2	b
1312	環境保全基準達成率（水質）（%）	83.5	a	83.9	a	81.3	a
1313	ごみの総排出量削減率（%）	2.5	a	4.6	a	5.9	a
1313	ごみの再生利用率（ごみの排出量に占める再生利用量の割合）の伸び率（%）	1.8	c	2.3	c	2.7	c
客観指標総合評価			a		b		b

2 政策を構成する施策に対する市民生活実感評価

施策番号	設問	評価		
		17	18	19
1311	省エネや省資源に取り組むお店や買い物客、公共交通機関を利用する人が増えている。	c	c	c
1312	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	c	c	c
1313	ごみの減量、分別収集や集団回収などに取り組む人が増えている。	c	c	b
市民生活実感総合評価		c	c	c



3 総合評価（市民生活実感総合評価＋客観指標総合評価）

B	客観指標については、全6項目のうち、環境基準・ごみの減量などに関する3項目でa評価であるなど、全体としては良い状況である。 市民生活実感については、全3項目のうち環境実践についてb評価に上がったが、他の2項目は引き続きc評価であり、どちらも言えない状況である。 客観指標評価及び市民生活実感評価を総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。	17年度	B
		18年度	B

4 政策の重要度（27政策における市民の重要度）

17年度		18年度		19年度	
順位	%	順位	%	順位	%
9	20.9%	9	20.4%	9	22.5%

5 原因分析・今後の方向性

総合評価は、昨年度に引き続きB評価となった。 K E S 取得件数や市民生活実感評価などから、環境に配慮した行動を行う市民や事業者が着実に増加していることが読み取れるものの、温室効果ガス排出量は、増加傾向にあり、削減目標の達成が危ぶまれる。とりわけ民生・家庭部門で増加率が高くなっており、抜本的かつ効果的な排出量削減対策を早急に講じる必要がある。 京都市内の生活環境については、大気汚染・水質汚濁・騒音・ダイオキシンともに国の環境基準をクリアしており、本市独自の目標達成も着実に進ちよくしている。また、家庭ごみ有料指定袋制の導入により、一層のごみ排出量の削減が進むとともに、市民生活実感調査の結果も昨年度と比べて顕著に向上している。今後、プラスチック製容器包装の分別収集の全市拡大をはじめ、市民の自主的なリサイクルの促進に向けた啓発等により、再生利用率の向上を図るなど、一層の積極的施策展開が必要である。

（参考）この政策を実現するための施策とその総合評価

施策番号	施策名		評価結果		
		施策概要	17	18	19
1311		「京のアジェンダ21フォーラム」を核とした環境問題への取組	C	C	C
		地球温暖化防止のための二酸化炭素排出量削減を柱として策定した行動計画「京（みやこ）のアジェンダ21」を推進する「京（みやこ）のアジェンダ21フォーラム」を核として、市民・事業者・行政がパートナーシップの下に環境問題への取組を行う。			
1312		環境と共生するくらしの実現	B	B	B
		生活環境の汚染防止や新エネルギーの利用など、良好な自然環境の保全に努めるとともに、環境問題に関する理解を深め、市民一人一人が暮らしに節度を持つ、環境と共生する暮らしを実現する。			
1313		廃棄物を出さない循環型社会の構築	B	B	A
		市民・事業者と共に、ごみの発生抑制とリサイクル、適正な処理等を進め、廃棄物を出さない循環型社会を構築する。			



評価票、施策の評価票と似てるけれど、ちょっと違いますね。



そうですね、政策の評価は、施策評価結果をもとに評価しています。

まず、「1 政策の評価に用いる客観指標の最新値と評価」ですが、各施策に設定した客観指標のうち、最も施策を代表していると思われる指標や、市民生活がどのようになったかを示す指標を抽出し、その最新値とともに評価しています。総合評価の計算方法は、さきほどの施策評価の客観指標評価と同じです。



じゃあ、「2 政策を構成する施策に対する市民生活実感評価」の市民生活実感総合評価「C」の計算方法についても、客観指標総合評価の計算方法と同じなんですか。



そうですよ。あ、なんか評価のこと分かってきたんじゃないですか。



そうかも。。。それからそれから？



でですね、客観指標総合評価と市民生活実感総合評価を総合して、政策の総合評価を出すわけです。それから、市民の方々に生活実感をたずねるアンケートをとる際、重要だと思われる政策を5つほど選んでもらうんですが、その結果を順位と％で表示しています。



なるほど、この政策は全体の中で三年連続 9 位なわけですね。



そうそう、3 年間分の評価結果を掲載しているので、経年変化も分かるでしょう。

それから、次が施策評価票と同じ、評価票の中で最も重要な欄ですね。「原因分析と今後の方向性」なぜそのような結果になったのか。今後どのような方針をとるのかをそこに記しています。政策の方針、すなわち、京都市政の今後の方針がそこで読み取れるわけです。



キーポイントなわけですね。



そうですよ。そして、最後に、その政策の下位に位置する施策評価の結果を掲載しています。施策評価の結果から、政策評価の結果を計算するわけではないのですよ。以上が政策評価でした。



最初はちんぷんかんぷんでしたが、おかげで評価票の見方が分かりました。



最後に、なぜこのような評価を行うのか、評価がどういったことに活用されているのかについて説明します。

まず、一点目、評価することにより、京都市政の状況が分かりますね。評価によって、市政の状況を把握することにより、より効果的に政策を立案し、市政の推進に貢献することができます。

例えば、評価結果を新しい取組を企画して、予算を配分する際の基礎資料としたり、職員の配置や組織を改正するうえでも 参考資料としています。

それから、2 点目は、政策評価の結果を、「評価票」という分かりやすい形で市民の皆様に公開することにより、市民の皆様に、市政に対する関心や理解が深まるようにしています。



なるほど、評価することは、すなわち、「市政をより良くすること」なわけですね。

成功たぬき、どうもありがとう。よっしゃ、私も趣味「評価すること」きつねになろう！！